

【平成30年度田無すくすく保育園 事業報告書】

1 2018年度の概要

「風と光と笑顔あふれる保育園」をモットーに地域に親しまれ、こどもにもおとなにも信頼されるいごちのよい保育園をめざすことを基本理念のもと、田無すくすく保育園では

- ・いっぱいあそび いっぱい食べ いっぱい寝て にこにこ笑顔で過ごそう
- ・じぶんもまわりの人や物もたいせつにしよう を園の目標とし、

2点の大きな目標の元、今年度は特に

(ア) 元気に挨拶 (イ) 思いやりのこころを育てよう

に力を入れて保育に取り組み、子どもだけでなく大人も同じように同じ事に取り組んできた。まだまだ相手の気持ちに寄り添うなど難しい点もあるが、保育士の促しによって改善がみられる。今後もこの取り組みを続けて欲しいと思う。

2 振り返り

(1) 保育目標の実践

- ・園庭に大型遊具が設置されたことにより、園内での活動の幅が広がった
- ・自己の目標達成に向けて外部研修を活用した。今後も自分磨きやスキルアップのため職員がより多くの研修に出られるようにしていきたい
- ・5歳児クラスに新たに玩具を増やしたことで、子どもたちの興味関心が広がり、また大切に玩具を使う心が芽生えた
- ・地域の農園に出向き、じゃがいも堀やさつまいも堀を行った。この体験により、食物への関心を育てることができた。また地域交流の場になったと思う

(2) 保護者支援

- ・平日休暇の際、リフレッシュを目的とした保育を受け入れることで保護者との距離が縮まり、保育士とコミュニケーションを多くとる姿が見られるようになった
- ・保護者懇談会や個人面談を実施する中で、情報の共有、成長課程を話しあうことで家庭との連携が取れるようになった

(3) 地域の子育て支援

- ・すくすく体験とし、土曜日に保育園の体験をしてもらえる場をつくっているが、周知が行き届いておらず軌道にのっていない。周知の仕方を考えていく

(4) 職員構成

- ・ゆとりある職員配置にすることで時間内にて作業を効率よく行うことができた。一方で、クラスによってバランスが崩れる場面もあり、各自の特性を生かすことができなかった

2 児童利用状況

(1) 月極利用児童受託状況

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	6人	15人	15人	20人	20人	20人	96人
前期利用者	6人	15人	15人	20人	20人	2人	78人
後期利用者	6人	15人	15人	20人	20人	1人	77人

3 保育園開園時間

標準時間基本保育時間	7:00～18:00
標準時間延長保育時間	18:00～20:00
短時間基本保育時間	8:00～17:00の間の申請した8時間
短時間延長補食時間	上記以外を超えた時間

4 職員（平成30年4月1日時点）

常勤職員 18名				パート職員 12名			
施設長	1名						
保育士	14名	看護師	1名	保育士	5名	事務員	1名
栄養士	1名			栄養士			
調理師	1名			調理員	5名		
				嘱託医	1名		

5 運営報告

(1) 会議内容

①施設内会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園会議	19日 17人	24日 15人	28日 15人		3日 15人	28日 15人	25日 15人	29日 15人	16日 15人	29日 15人	28日 15人	28日 15人
給食	24日 4人	29日 5人	26日 5人	24日 4人	21日 5人	25日 6人	30日 6人	27日 5人	26日 6人	29日 5人	25日 5人	26日 5人
運営 委員							12日 9人					1日 9人
その他				9日	28日		11日					8日 9日

②施設外会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	18日	16日	25日	11日 9日			10日 31日		5日	10日	6日	
看護師								14日	17日			
栄養士	24日	29日	26日	24日	21日	25日	30日	27日	26日	29日	25日	26日

(2) 係内容

衛生管理者	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
食品衛生管理者	衛生点検・予防及び管理と全職員への指導
防火管理者	避難訓練の実施、自衛消防訓練通知書の提出
園内研修委員	園内研修の企画立案を行った（別紙参照）
親睦会	職員のコミュニケーションを深める会の設定を行った

6 保育方針

(1) 子どもの保育目標

- 0歳児：概ね生活リズムが整い愛着関係を築くことができた
- 1歳児：クラス半数の子がトイトレに成功し、おむつを外すことができた。一方でお迎えが遅く夕方になると疲れが見え始めトラブルが多くあった
- 2歳児：途中で園児が2人変わる。一人一人がとても自立心が強いため、基本的な生活習慣が身につくのが早い。一方で集団遊びになると個々の思いが強くとつかることがあった
- 3歳児：専門機関のアドバイスにより、他児対して優しく見守り、またできない子には手助けをしてあげられるクラスづくりが行えた
- 4歳児：集団での動きについてこれられない子が多くいるため、絵カード等、専門機関からのアドバイスを保育に取り入れて行った
- 5歳児：1名だったため4歳児と合同保育。5歳児らしい活動をできるように担任を一人配置し、個別での対応を行った

(2) 年間行事報告

夕涼み会では台風直撃になり急遽、別日に行くことになった。それ以外は大きなトラブルもなく行事予定表に伴い行うことができた。各行事の反省点を踏まえ、来年度は改善を求める

(3) 食育実施報告

(ア) 計画に従い各年齢の目標を達成することができた。

(イ) 園庭での野菜の栽培・収穫

2歳児	なす
3歳児	ピーマン
4歳児	トマト
5歳児	稲

(ウ) 調理保育

2歳児	とうもろこしの皮むき
3歳児	野菜のちぎり・ピザトースト作り・はし
4歳児	野菜の皮むき（ピューラー）
5歳児	おやつ作り

(4) 保健実施報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳児	26日	17日	7日	12日	2日	13日	25日	22日	6日	24日	21日	7日
内科			7日						6日			
歯科			8日					29日				
眼科		17日										
歯科衛生		21日										
職員検便	11日	16日	13日	11日	8日	12日	10日	14日	12日	16日	13日	13日

(5) 各種点検報告

危機管理	安全点検チェック	毎月 事務が担当
	SIDS チェック	毎月 各クラス担当
	事故防止チェック	毎日 各クラス担当
衛生管理	衛生管理点検表	毎日 乳児・給食担当
	個人衛生点検簿	毎日 乳児・給食担当
	検便・細菌検査	毎月 全職員
健康管理	保健関係確認(既往歴・保険証)	年2回 看護師
	身体測定	毎月 各クラス
	児童各種健康診断	上記参照
運営管理 s	自己評価	毎月 全職員
	第三者評価	年1回 全保護者・職員

7 危機管理

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
避難訓練	19日	24日	28日	18日	3日	28日	11日	29日	16日	19日	28日	28日
ヒヤリハット	16件	12件	23件	17件	8件	4件	8件	9件	9件	7件	5件	10件
受診件数	1件	0件	2件	2件	3件	3件	4件	1件	1件	2件	1件	5件
不審者対応	田無警察署生活安全課より講師を派遣											
光化学スモック	学校情報をもとに行動した											

8 ボランティア・実習生の受け入れ

① 職場体験

日程	学校名	人数	担当保育士
7月23・24日	大泉桜高校	2名	望月 優
8月6・7日	東亜学園	1名	望月 優
8月6・7日	鷺宮高校	1名	望月 優
8月20・21日	武蔵野女子	1名	中村 望美

② 実習生

8月16日～9月1日	帝京科学大学	1名	小野寺沙季
------------	--------	----	-------

9 職員育成と研修報告

① 園内研修

4月	グループワーク	10月	パーソナルタイプ
5月	さすまた	11月	児童虐待(のどか)
6月	AEDについて	12月	外部講師
7月	防災訓練	1月	エアロビ
8月	SWOT分析	2月	災害に備えて
9月	研修報告	3月	マニュアル変更点

② 外部研修

中堅層には処遇改善Ⅱにおけるキャリアアップ研修に優先的に受けさせた。また若手には各年齢の発達と保育についての研修、また安全対策においての研修に積極的に参加を行い、会議の場などで意見を出したい、この時はこうするなど深く話し合いを行い対策・マニュアルの変更を行った

1 0 地域交流報告

ハロウィンの際に5歳児が挨拶に伺う。また行事などの際には、手紙を都営住宅の掲示板に貼っていただき交流の場を広げる。地域の方から玩具の差し入れなど、関わるが多くなってきた。
来年度は地域文庫にも足を伸ばし、園外での活動の幅を広げたいと考える

1 1 小学校との連携

地域の小学校の体育館を借りて運動会を行うことで、子どもの期待感また不安感を和らげることができた。また交流の少ない小学校に対しても児童要録を渡すことで情報の共有を図ることができた

1 2 要支援児童への対応

専門機関と連携を図り園に訪問してもらうことで、気になる子への対応方法、また活動へのアシストを学ぶことができた。それにより担任の負担が、軽減されスムーズに園生活における支援を行うことができた。引き続き支援を行うとともに、新たな課題、また保護者へのアプローチ方法を課題に研修などを取り入れ学んでいこうと思う

1 3 福祉サービス第三者評価の受診

- ・学研データサービスに依頼。アンケート配布日：12月14日～12月28日
アンケート回答率（職員）・・・100% アンケート回答率（保護者）・・・65%
- ・昨年度より「お迎え時の伝達について」の面で評価が下がっていた。保育に集中するため、必要最低限に会話を抑えたことが原因と思われる。これを踏まえ、園での様子を一言は伝えられるよう勤務体制を変更し、改善していく

1 4 来年度に向けて

- ・児童数も定員に達し、更なる園への活動に期待がかかると思われる。その中で円滑に運営するためにも、保護者のニーズに応えながら、職員の資質向上が求められる。
- ・地域との交流やボランティアの受け入れは、子どもや職員にとってより豊かな経験となるよう、また、本園が地域の施設として認められるよう、計画性をもって積極的に行う